



問い合わせ先

第一管区海上保安本部 交通部

整備課長 武隈 裕二

TEL 0134-27-0118 (内線2650)

## 航路標識（灯台）の防災対策の推進について

### ～平成29年度航路標識整備事業の概要～

海上保安庁では、東日本大震災において、航路標識が甚大な被害を受けたことを踏まえ、航路標識の防災対策を重点的に進めています。

第一管区海上保安本部では、平成29年度の整備にあたり、既存航路標識の耐波浪補強、耐震補強などの防災対策を計画的に進め、また、昨年の台風被害により、崩落した敷地の地盤補強を実施します。

更に、航路標識の長寿命化対策として、北海道で著名な灯台の延命工事を行い、併せて化粧直しを行います。

**航路標識整備事業費(公共事業)：総額2億8千万円(前年比約1.9倍)\***

\*1 平成28年度繰越し予算分を含みます

\*2 平成28年度予算：総額1億5千万円

### 航路標識の防災対策

- 1 地震、津波等災害においても船舶交通の安全を確保するため、劣化による倒壊等が懸念される灯台の耐波浪補強及び耐震性能を満たしていない灯台の耐震補強の整備を行います。

平成29年度においては、

- ・10標識の耐波浪補強

(進捗率：91.5% (平成28年度末))

→ (進捗率：95.2% (平成29年度末見込み))

- ・1標識の耐震補強

(進捗率：93.4% (平成28年度末))

→ (進捗率：94.7% (平成29年度末見込み))

を行います。

- 2 平成28年8月に発生した台風による大雨の影響で、納沙布岬灯台の一部敷地斜面が崩落しており、復旧のための地盤補強を実施します。

3 「航路標識の長寿命化<sup>※1</sup>」として、北海道で著名な灯台<sup>※2</sup>の延命工事を行います。

(1) 石狩灯台（石狩市）

明治25年に初点灯、明治41年に建替えられた石狩灯台は、石狩川の河口に位置し、北海道で唯一、現存する鉄造灯台ですが、経年劣化による赤錆が著しいことから延命工事を行い、併せて、地域に長く愛される灯台を目指して、外装の化粧直しを行います。

この灯台は、昭和32年、初のカラー映画となった「喜びも悲しみも幾年月」<sup>※3</sup>の撮影時に、カラー映像が映えるよう、灯台を白黒から赤白模様に変更されました。

これが、赤白灯台の始まりとなりました。

(2) 能取岬灯台（網走市）

大正6年に初点灯した能取岬灯台は、オホーツク海に面した能取岬に位置し、昭和54年に建て替えておりますが、経年劣化による外装材の汚損が著しいことから延命工事を行い、併せて、今年で、初点灯から100周年を迎えることを記念して、外装の化粧直しを行います。

※1 著名な灯台の長寿命化整備

北海道では23基が該当し、うち15基の整備が終了しています。

※2 著名な灯台とは

岬の先端などに設置され、良好な景観を形成し、観光資源としても価値の高い灯台の事を言います。

海上保安庁では、地域のシンボリック的存在である灯台の活用を地域に働きかけ、地方公共団体が整備する灯台周辺の公園化との一体化を図り、地域に親しまれる「岬のオアシス構想」に取り組んでいます。

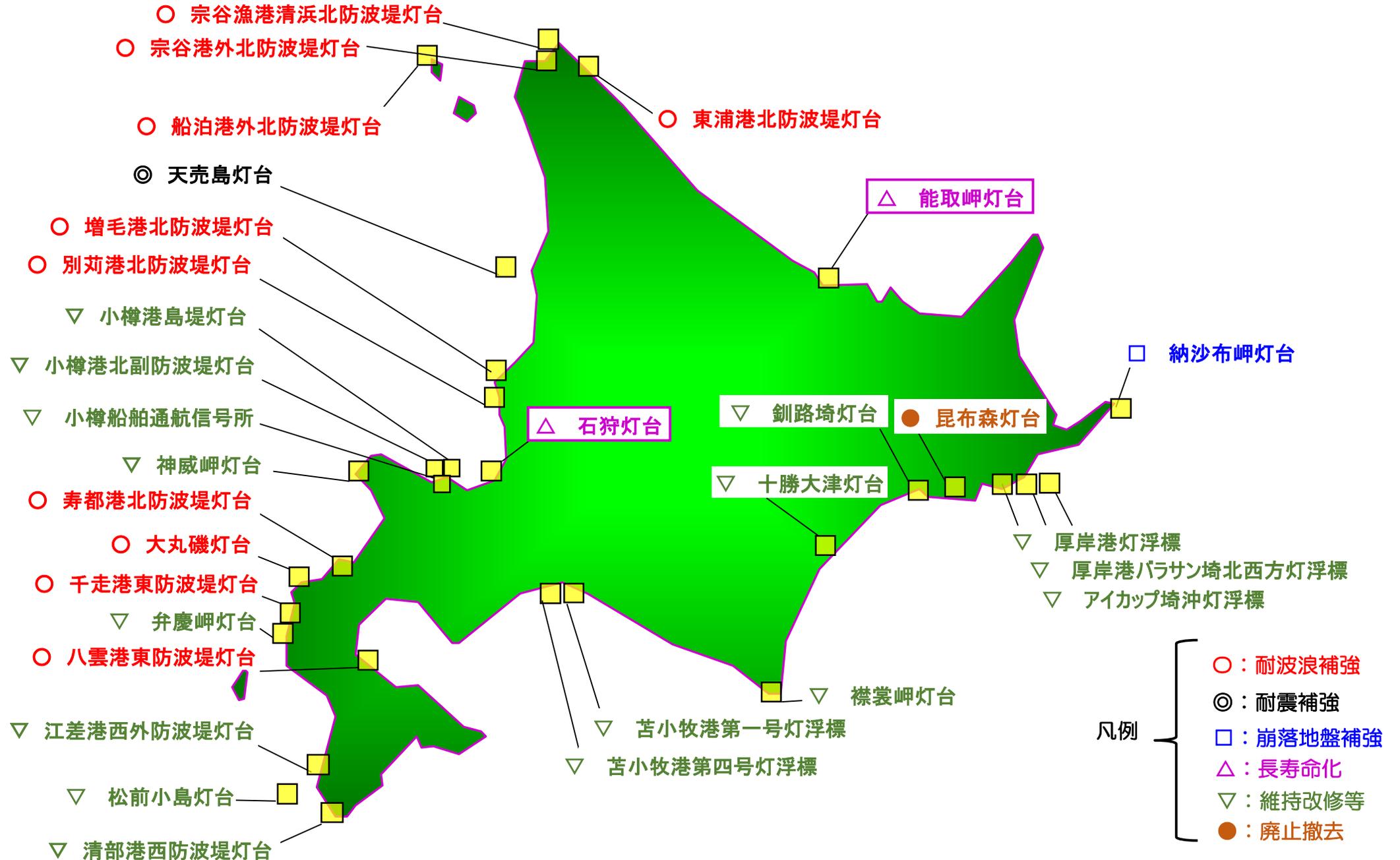
※3 映画「喜びも悲しみも幾年月」昭和32年松竹

監督：木下恵介

主演：佐田啓二・高峰秀子

内容：昭和7年から北は納沙布岬、南は五島列島・女島（めしま）まで、全国15カ所を灯台守夫婦の苦節25年を日本各地の風物をからめて描く感動のドラマ

# 平成29年度 航路標識整備事業箇所位置図



地震、津波対策（耐波浪、耐震補強）

劣化による倒壊防止及び耐震性能を満たしていない灯台の補強を実施



耐波浪基礎補強



耐震補強



納沙布岬灯台の敷地崩落対策

崩落した地盤の復旧（地盤補強）を実施

〔被災前〕



全景（北側）



全景（南側）

【平成 27 年 7 月 撮影】

〔被災後〕



北側斜面の法面崩落状況



南側斜面の法面崩落状況

【平成 28 年 8 月 撮影】

## 航路標識の長寿命化

著名な灯台の延命工事



全 景



灯台上部

石狩灯台



全 景



灯台上部

能取岬灯台

### 航路標識の防災対策の進捗率

資料3

	対象基数	平成28年度末まで実施又は対策不要		平成29年度予定		次年度以降に整備	備考
		基数	進捗率	基数	進捗率		
耐波浪対策	271基	248基	(91.5%)	10基	(95.2%)	13基	対象基数は、全ての防波堤灯台
耐震対策	76基	71基	(93.4%)	1基	(94.7%)	4基	対象基数は、全ての沿岸灯台

